

ATP発光測定法を応用した プラスチック製品のかび抵抗性試験 を開始します！

ATP発光測定法を応用したプラスチック製品のかび抵抗性試験（定量試験）とは、未加工品、加工品上で増殖したかびの細胞からATP(※)を抽出し、その量の比較からかび抵抗性を定量的に評価する試験です。

※ATP…アデノシン三リン酸

試験のメリット

定量的に効果を確認！

未加工品と加工品におけるかびの増殖の違いを、数値で分かりやすく確認できます。

試験期間を42時間に短縮！

JIS Z 2911プラスチック製品の試験（定性試験）は、結果が判明するまでに28日間を要しますが、ATP発光測定法を用いたスクリーニングなら、42時間で結果が判明！製品開発のスピードアップが期待できます。

試験方法の概要



1. 試料にかび孢子懸濁液を接種し、42時間培養します。



2. 培養後、試料の表面に発育したかびを洗い出します。



3. 洗い出したかびの細胞内からATPを抽出し、発光量を計測器で計測します。

4. 1～3の操作を未加工品および抗かび加工品で行い、下記の計算式で抗かび性評価値（A）を算出します。

未加工品のかび増殖値（F）＝②－①

加工品の抗かび性評価値（A）＝②－③

① 接種直後の未加工品のATP量（mol）の対数値

② 接種後42時間後の未加工品のATP量（mol）の対数値

③ 接種後42時間後の抗かび加工品のATP量（mol）の対数値



[お問い合わせはこちら](#)

評価技術センター